

黒毛和種繁殖雌牛における分娩前後の胸囲長の増減を指標とした栄養状態の簡易モニタリング

【概要】

- 授精回数の増加による空胎日数の延長は、分娩前後の栄養不足が一因です。分娩前後の栄養充足状況は、分娩予定日8週前及び分娩後1週の胸囲長を測定することで、簡易にモニタリングすることが可能です。
- 試験では、受胎までに2回以上の授精を要した牛は、空胎日数が延長しました(表)。また、体脂肪の分解により増加する血中遊離脂肪酸濃度が高く推移したことから、授精回数の増加は、栄養不足によるものと考えられました(図1)。
- 分娩予定日8週前と比較して、分娩後1週に胸囲長が2 cm以上減少した個体は栄養不足が疑われるため、飼料給与量の見直しが必要です(図2)。

【試験データ等】

表 受胎までの授精回数別の繁殖成績等

受胎までの授精回数	頭数	授精回数	初回発情回帰日数	初回授精日数	空胎日数	妊娠期間(日)	授乳期間中の子牛のDG(kg/日)
1回	11		41.4±10.5	41.5±10.6	41.5±10.6 ^a	288.5±3.4	0.67±0.15
2回以上	19	2.4±0.8	39.7±10.6	40.9±10.5	66.1±22.3 ^b	289.3±4.1	0.71±0.13

※ 異符号間に有意差あり (p<0.05)

※ 平均値±標準偏差

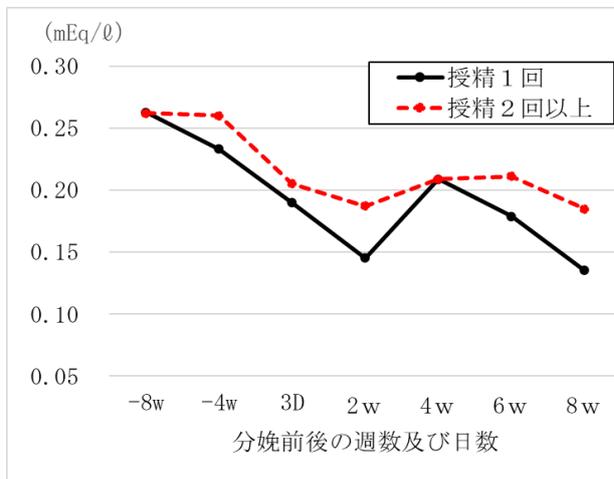
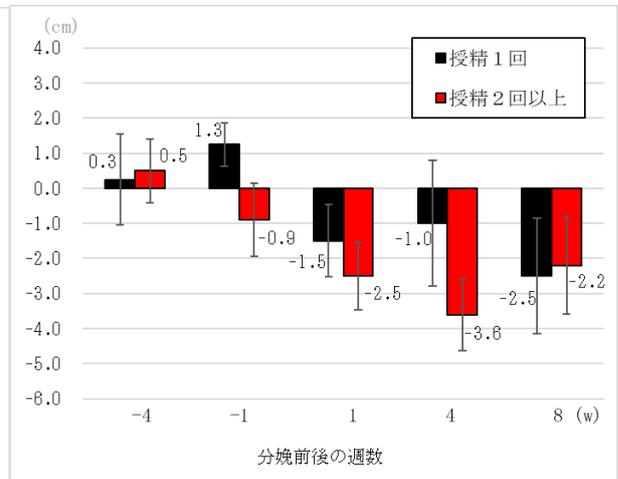


図1 受胎までの授精回数別の分娩前後の血中遊離脂肪酸濃度



※ エラーバーは標準誤差
 ※ 分娩予定日8週前の胸囲長を0とした

図2 受胎までの授精回数別の分娩前後の胸囲長の増減

【令和7年度成果】黒毛和種繁殖雌牛における分娩前後の胸囲長の増減を指標とした栄養状態の簡易モニタリング (R7-指-27)